平成３０年度第５回三重県総合教育会議　議事録（概要）

１　日　時　　平成３０年１０月２９日(月) 10:30～12:00

２　場　所　　三重県立四日市工業高等学校ものづくり創造専攻科棟

３　出席者　　知事、教育長、教育委員４名

４　議　題　　キャリア教育、職業教育について
※協議に先立ち、ものづくり創造専攻科生徒２名による海外インターンシップの報告及びものづくり創造専攻科の機械コース「工業力学」及び電気コース「制御工学」の授業を参観

５　主な意見　○：教育委員、●：知事

○　国では、専門的な知識や技能に基づいて地域貢献のできる人材の育成を考えており、ものづくり専攻科はその典型的な例になると思う。地域との連携では、産業界や大学との連携があり、「アクティブラーニング」や「反転授業」については大学の方が改革は進んでいると思うので、高校の授業を変えていく契機として役に立つ部分があると思う。

離職については、世代の違う人とのコミュニケーションが原因となっている場合がある。高校が育てようとしているコミュニケーション力と企業が必要とするコミュニケーション力にズレが生じている。生徒が身につけていると思っているのは同世代間のコミュニケーションであり、就職しても年齢差がある同僚の話が理解できない場合がある。

また、人の話を聞いて理解する基本的な部分（基礎学力）をどう身につけさせるかということが問題である。高校でも職業教育の前にこの基礎学力を身につけさせることが大事である。

○　インターンシップや職業体験を経験した生徒の感想には、こういう機会に触れることにより進路の選択肢の幅が広がったということがあり、校内で行う職業教育と民間企業の受け入れの両方を連携してすすめることが大切だと思う。

○　キャリア教育については、現在小中高で進めている、地域で様々な人と一緒にやっていくというやり方は、自己肯定感やコミュニケーション力を高めていくという意味で良い取組である。

職業教育については、限られた時間の中でなかなか難しいのかもしれないが、専攻科に限らず、高校でもできる限り、職業教育として３年間で企業見学等の時間を作ることが必要ではないか。

３年後の離職の問題については、離職理由が、仕事が向いて

いない等ではなく、３年間その職場で何を得て学んだか、そのキャリアを次にどう活かすことができるかを言えるようなものでなければいけない。そういう人生の進め方もあるということを教育の中で教えていくことも必要ではないか。また、就職のミスマッチの一つの要因である、親のメジャー志向的な意識についても変えていく必要がある。

○　ミスマッチや離職率が高いことについては、基礎学力が根底にあると感じている。社会では基礎的な力がないとうまくコミュニケーションができず、離職につながっていると考えている。

子どもたちにはいろんな企業でそれぞれどんな仕事をしているのか、いろんな形で経験して自分には何が合っているのか、もっと深く理解する場面が必要だと感じている。

四日市工業高校専攻科については、一期生が頑張っており、彼らの成長のためにもしっかりと支援をしていく必要があると感じている。

●　教育カリキュラムについて、学校側の視点だけではなく、学ぶ側（提供される側）の目線を大切に、変えられることや充実できることは積極的に見直していくべきである。

離職については、不本意に離職せざるを得ない人への対応が必要である。離職率が男性より女性の方が１０ポイント以上高い。職業選択や進路指導が充実していないのが原因であるのなら直していかなければならない。クロス分析をするなどしっかり要因分析を行い、対策を考えていく必要がある。

以上